

平成19年度気候講演会(東京)の開催について

気象庁は、地球環境問題に関する最新の科学的知見やその対策などについての知識を深めて頂くために、「気候講演会」を平成元年から毎年、日本各地で開催しており、今回は東京都で開催致します。

本講演会では、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）第4次評価報告書の内容を含め、地球温暖化の現状と将来予測及び地球温暖化の影響に関する最新の知見について広く紹介するほか、デモンストレーションを交えて地球温暖化についてわかりやすく解説します。

記

1 期日：平成19年8月5日（日）13時～15時30分（12時30分開場）

2 場所：科学技術館 サイエンスホール（東京都千代田区北の丸公園）

3 実施体制：

主催：気象庁、（財）日本気象協会、（財）気象業務支援センター

後援：文部科学省、農林水産省、国土交通省、環境省、茨城県教育委員会、

栃木県教育委員会、群馬県教育委員会、埼玉県教育委員会、千葉県教育委員会、

東京都教育委員会、神奈川県教育委員会、全国地球温暖化防止活動推進センター、

（社）日本気象学会、日本気象予報士会（予定）

4 実施内容

タイトル：「知ろう わかろう 地球温暖化」

講演：

- ・『地球温暖化のこれまでとこれから』

気象庁 地球環境業務課 地球温暖化対策調整官 里田 弘志

- ・『地球温暖化の影響の現状と予測』

（独）国立環境研究所 社会環境システム研究領域長 原沢 英夫

- ・『地球温暖化を身近に理解するためのデモンストレーション』

二酸化炭素と空気を封入した容器に光を当て、両者の上昇温度を比較することで、地球温暖化のメカニズムをわかりやすく解説します。

（実験装置開発・協力：東京理科大学 川村康文 准教授）

- ・『地球温暖化問題の伝え方』

全国地球温暖化防止活動推進センター

ストップおんだん館 インタープリター 山本 かおり

5 その他

定員：400 名（事前申込制、応募多数の場合は抽選）、入場無料

応募方法等詳細につきましては、別紙のリーフレットをご覧ください。

本件問い合わせ先：気象庁地球環境・海洋部地球環境業務課

電話：03-3212-8341（内線4225）

気候講演会

入場無料

知ろう わかろう 地球温暖化

最近、テレビや新聞などで話題となっている地球温暖化…。私たちの生活の中からも排出されている二酸化炭素が原因といわれていますが、どのような仕組みで地球温暖化が起きるのでしょうか？そして気候はどのように変化し、私たちの生活や生態系などにどのような影響が出てくるのでしょうか？

地球温暖化について、今年公表されたIPCC（気候変動に関する政府間パネル）の内容を中心に、科学実験を交えてお伝えします。

平成19年

8月5日(日)

13時～15時30分

主催：気象庁、(財)日本気象協会、
(財)気象業務支援センター

後援：文部科学省、農林水産省、国土交通省、環境省、
茨城県教育委員会、栃木県教育委員会、
群馬県教育委員会、埼玉県教育委員会、
千葉県教育委員会、東京都教育委員会、
神奈川県教育委員会、
全国地球温暖化防止活動推進センター、
(社)日本気象学会、日本気象予報士会(予定)



基調講演

●『地球温暖化のこれまでとこれから』

気象庁 地球環境業務課 地球温暖化対策調整官 里田 弘志

●『地球温暖化の影響の現状と予測』

(独) 国立環境研究所

社会環境システム研究領域長

原沢 英夫

地球温暖化をわかりやすく伝えるために

●地球温暖化を身近に理解するためのデモンストレーション

●地球温暖化問題の伝え方

ストップおんだん館 インタープリター 山本かおり



会場

応募方法

往復はがきに、住所、氏名、年齢、職業をご記入の上、以下の宛先までお申し込みください。

宛先 〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4
気象庁地球環境・海洋部地球環境業務課 計画係
(1枚のはがきに1名の応募とさせていただきます。)

科学技術館 サイエンスホール

(東京都千代田区北の丸公園)

交通：【東京メトロ東西線】「竹橋」駅から徒歩7分

【東京メトロ東西線、半蔵門線、都営地下鉄新宿線】

「九段下」駅から徒歩7分

定員：400名(応募多数の場合は抽選)

対象：高校生以上

本講演会のお問い合わせ先(ホームページ)

気象庁地球環境・海洋部地球環境業務課 TEL 03-3212-8341 内線4225 (<http://www.jma.go.jp/>)

地球温暖化のこれまでとこれから



気象庁 地球環境業務課 地球温暖化対策調整官 里田 弘志

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は、本年5月にまとめた第4次評価報告書で、「気候システムの温暖化には疑う余地がない」と断定したほか、「過去約50年間の世界の気温上昇のほとんどは、人間活動によってもたらされた可能性がかなり高い」との結論を下しました。また、今後100年間に最大6.4℃の気温上昇や、最大59cmの海面上昇等が起こるとの見通しも示されています。ここでは、世界と日本の気候がこれまでどのように変わってきたか、人間活動によって、これからどのように気候が変化すると予想されているかを、これら最新の科学的成果に基づいてわかりやすくお伝えします。

地球温暖化の影響の現状と予測



(独) 国立環境研究所 社会環境システム研究領域長 原沢 英夫

地球温暖化の進行がとまらない。ここ100年で地球の平均気温が0.74℃上昇し、北極の海水や高山の氷河が溶けたり、動植物にも影響が現れています。今後温暖化がさらに進めば、雪氷圏、生態系、水資源、農業や食料、沿岸、人の健康などに深刻な影響が現れると予測されています。さらに温暖化は熱波やハリケーン・台風などの極端な現象の頻度や規模を変化させています。温暖化の影響は子供や孫の時代に影響を与えるのみでなく、現世代の私たちにも影響を与えることがわかってきました。温暖化を止めるために原因物質である温室効果ガスの排出を大幅に削減することが基本ですが、さらに今後現れるであろう影響や被害を低減するための適応策の重要性も増えています。



地球温暖化を身近に理解するための デモンストレーション

自然の空気と二酸化炭素を入れた二種類の容器に光を当て、その上昇温度を比較します。

(装置開発・実験協力：東京理科大学 川村康文准教授)

地球温暖化問題の伝え方

「ストップおんだん館での伝え方～自分のこととしてとらえよう～」



ストップおんだん館 インタープリター 山本かおり

地球温暖化に興味を持つ人が増えています。環境省の委託を受けて、全国地球温暖化防止活動推進センターが運営する環境学習施設「ストップおんだん館」には、子供から大人まで幅広い方々が来館されます。当館には、インタープリターと呼ばれる「地球温暖化を来館者と一緒に考えるスタッフ」がいます。また、地球温暖化を自分のこととして考えられる展示や、体験型のプログラムが人気です。館で開発した展示物・プログラムツールは、地域で活動している方々に貸出しもしています。今回は、ストップおんだん館で日頃行っているプログラムを紹介しながら、地球温暖化問題を自分のこととしてとらえてもらうコツをお伝えします。



藤森 涼子

司会

熊本県生まれ。山脇学園在学中に、民放のお天気お姉さんでデビュー。1996年気象予報士資格を取得。現在は、日本テレビ「日テレニュース24」気象情報担当。

また、NPO法人 気象キャスターネットワーク副代表として全国の小中学生に向けて、温暖化防止の出前授業の講師を務める。